

大学教育再生加速プログラム(AP) 事後評価結果

整理番号	12	大学等名	八戸工業大学
テーマ	テーマⅡ 学修成果の可視化		

（「大学教育再生加速プログラム委員会」による評価）

【総括評価】

A：計画どおりの取組が行われ、成果が得られていることから、本事業の目的を達成できたと評価できる。

【コメント】

大学改革の加速については、学生の自主的学習活動を推進するための「ラーニング・ポートフォリオⅠ」及び教員の教育活動を可視化するための「ティーチング・ポートフォリオ」をセットで導入した結果、授業・研究設備、卒業研究、自分の進路、進路指導等の学生満足度の改善が確認された点は十分評価できる。また、全学教育改善シンポジウムを通じてアクティブ・ラーニング科目の普及を行った結果、アクティブ・ラーニングの要素を含む科目の開講割合が大幅に増加した点、さらに高大接続改革における質保証の一環として卒業時に修得因子達成度レベル以上を獲得したことを保証するディプロマ・サプリメントを卒業生に交付した点についても十分評価できる。

事業の具体的な取組の進捗状況については、テーマ別評価の観点に即して、「学修到達度調査」及び「卒業生達成度評価」の取組が着実に進捗しており、特に前者の進捗については、必須指標である「学修到達度調査の実施率」が目標値を達成しているところにも表れている。その他の目標の達成状況に関しても、「学生の授業外学修時間」等が目標値を達成している点は十分評価できる。一方で、必須指標のうち「授業満足度アンケートにおける授業満足率」及び「退学率」は、事業開始年度の実績値より改善されたものの目標値は達成できなかったため、今後の更なる数値の改善に向けた方策の実施が期待される。

事業の定着に向けた実施体制及び継続のための取組状況については、学長直属の「教育改革委員会」及び「教育改革専門委員会」の組織的な実施体制がよく整備され、本事業の学内周知も徹底されており、上記2つの委員会は補助期間終了後も継続して活動することとしている点は十分評価できる。一方で、「大学教育再生加速プログラム事業推進室」が令和元年度をもって廃止になったことに加え、同室に配置されていた教学IR分析を含めた学修成果の可視化を専門とする特任教員が平成30年度末に退職した点は留意すべきであり、今後の着実な事業の継続と発展のためには、一層の体制整備が求められる。

事業成果の普及については、本事業の取組を波及させる手法として、中間報告会を東京で、最終報告会を八戸市で開催したことに加え、両報告会当日の講演やパネルディスカッション等は当該大学のWebサイトで動画配信もなされている。また、各種の書誌や研究会等で29本の事業報告を行った点も十分評価できる。